

若草中学校 自己評価書・学校関係者評価書（後期）

平成28年 1月 29日

南アルプス市立若草中学校校長 小田切 雅裕

学校関係者評価委員会委員長 望月 保

- 1 本年度の教育目標
 - ① 学校教育目標 よく学び、心豊かで、たくましい生徒の育成
 - ② 具体的目標 (目指す生徒像)
 - よく学び、工夫する生徒 (知育)
 - 心豊かで、助け合う生徒 (徳育)
 - 健康で、たくましい生徒 (体育)
 - 意欲を持ち、やりぬく生徒 (意欲)
 - ③ 本年度の重点
 - 自律と自立(自らを律して自ら立つ) 基礎基本の定着、早寝・早起き・朝ご飯
 - 想像力と創造力(イマジネーション・クリエイションを働かせる)
 - ・思考力、判断力、表現力の養成 ・読書活動 ・心を形に(小笠原流礼法) ・おもてなしの心
 - 和、輪、ワ(友情・信頼、仲間づくり・連帯感、驚きと感動の3つの"わ")
 - ・学びの輪 ・合唱の輪

- 2 評価実施日
 - ① 自己評価 評価実施日(平成 27年 12月18日) 評価書作成日(平成28年 1月 7日)
 - ② 学校関係者評価 評価実施日(平成 28年 1月18日) 評価書作成日(平成28年 1月28日)

3 自己評価結果に対する学校関係者評価
 評価点：「思う…3点 やや思う…2点 あまり思わない…1点 思わない…0点」の平均点
 評価：A…評価点2.4以上 B…評価点2以上2.4未満 C…評価点1.5以上2未満 D…評価点1.5未満

項目	観点	具体的な評価内容	今年度 評価点	評 価	昨年度 評価点	自己評価		学校関係者評価 意見・支援
						達成状況・改善策		
I 教育 目 標 に つ い て	①	あなたは、学校経営方針に基づき、教育活動を行っていると思いますか。	2.4	A	2.5	○ 全ての項目において高い評価であり、全職員が学校教育目標の具現化に向け、PDCAサイクルを活用しながら取り組んでいる様子が伺える。特に、④「よく学び、工夫する生徒」の項については、この2年間取り組んできた、「小グループを活用した授業づくり」に対する全職員の意識の高さを示している。学校長の示した「若草中の一流」を3学期のまとめである卒業式で具現化できるよう、更に全職員一丸となって取り組んでいきたい。	○ 学校教育目標達成のために先生方が努力されている様子が理解できた。子ども達が、一歩ずつ「目指す生徒像」に近づこう、折に触れて継続的な指導をお願いしたい。また、今後も「小グループを活用した授業づくり」等の、学校全体での取り組みを積極的に行ってほしい。	
	②	若草中学校は、常にP→D→C→Aサイクルに基づいた教育活動が取り組まれていると思いますか。	2.3	B	2.0			
	③	あなたは、「よく学び、心豊かで、たくましい生徒」を育成していると思いますか。	2.3	B	2.2			
	④	あなたは、「よく学び、工夫する生徒」を育成していると思いますか。	2.3	B	2.0			
	⑤	あなたは、「心豊かで、助け合う生徒」を育成していると思いますか。	2.2	B	2.2			
	⑥	あなたは、「健康で、たくましい生徒」を育成していると思いますか。	2.2	B	2.2			
	⑦	あなたは、「意欲を持ち、やりぬく生徒」を育成していると思いますか。	2.2	B	2.2			
II 校 務 分 掌 に つ い て	①	あなたは、職務内容を十分理解し、責任を持って仕事にあたっていると思いますか。	2.6	A	2.7	○ 2学期は、学園祭や新人戦、校内ロードレース等の行事があり、更に今年は公開研究会が実施された。学校全体で取り組まなければならない場面で、各自が自己の職責を理解し、お互いに協働しながら取り組んだことが、全項目での高い評価から伺える。校務の効率化と学校としての継続性を意識した引継ぎをすることによって、若草中の学校力を更に高めていきたい。	○ 先生方が、授業以外に多くの仕事を分担し、様々な場面で組織として対応し、若草中学校の教育活動を推進してくれている点は感謝している。今後も、更に良い若草中学校を目指して、職員間の情報共有等チームワークを高めて、学校力の向上に努めていただきたい。	
	②	あなたは、自分の分掌と他の人の分掌との関連を考え、相互に連絡・協調していると思いますか。	2.5	A	2.4			
	③	あなたは、分掌の達成状況、改善点などを管理職に「報告、連絡、相談、確認」していると思いますか。	2.4	A	2.5			
	④	あなたは、管理場所の安全点検を行い、常に適切な安全管理に努めていると思いますか。	2.6	A	2.5			
	⑤	あなたは、研修活動に積極的に参加し、常に自己の資質・力量の向上に努めていると思いますか。	2.3	B	2.2			
	⑥	あなたは、職員会議や校内研究会に積極的に参加し、決定事項を実践していると思いますか。	2.3	B	2.3			
III 学 習 指 導 に つ い て	①	あなたは、基礎・基本の定着を図る授業を行っていると思いますか。	2.4	A	2.4	○ 市の指定を受けて取り組んできた「学びの質を高める授業づくり推進事業」は、2年目を迎え、全教職員が「一校一実践」の課題を踏まえて「一人一実践」に取り組み、一定の成果を収めることができた。しかし、小集団を活用した授業づくりはまだまだスタートしたばかりで、試行錯誤しながら取り組んでいる。今後は、教師同士の同僚性を高めつつ、粘り強く継続して取り組んでいくことが重要である。	○ 校内研究等で授業改善に取り組んだ事など、先生方が工夫されている様子が感じられる。子ども達の落ち着いた授業の様子からも、ここ数年間の取り組みが、着実に成果となって表れていると感じる。市の指定がなくなる来年以降も、教科担任同士が連携を深めた研究活動を、継続して行っていただきたい。	
	②	あなたは、生徒の思考力・判断力・表現力、学習意欲を向上させる教科指導のあり方や教育内容の工夫改善に努めていると思いますか。	2.1	B	2.3			
	③	あなたは、研究主題を意識した授業を実践していると思いますか。	2.0	B	2.1			
	④	あなたは、少人数グループや習熟度別授業の実施、また、発展的な内容を取り入れるなど、個に応じた指導を目指していると思いますか。	2.2	B	2.2			
	⑤	あなたは、生徒自らに適性を見つめさせ、将来を見据えた進路指導を行っていると思いますか。	2.2	B	2.2			
	⑥	あなたは、生徒や保護者に学年に応じた適切な進路情報を提供していると思いますか。	2.1	B	2.1			
IV 生 徒 指 導 ・ 道 徳 指 導 に つ い て	①	あなたは、生徒理解のために生徒とのコミュニケーションを図っていると思いますか。	2.5	A	2.4	○ 生徒指導においては、生徒とのコミュニケーションを大切にしながら、基本的な生活習慣の確立に向けて全校体制で取り組んできた。その成果は、日常生活における落ち着いた授業態度や全校集会時の整然とした様子からも伺える。校内支援委員会や生徒指導会議等の情報交換や、日々の生徒指導での組織的な対応の効果も、多くの職員が実感しているところである。Q-Uの活用については今後の課題であり、活用方法も含めて検討が必要である。	○ 学年・学校が組織的に情報交換を行い、生徒指導に取り組んでいる成果が、生徒の落ち着いた生活態度に表れている。報道等で見聞きする、いじめの実態は痛ましく、いじめのない若草中学校であってほしいと願っている。そのためにも、一人ひとりの先生方の頑張りや、組織として教職員が連携した生徒指導を期待したい。地域としても支援したいと思っっているので、家庭や地域との連携も更に推進していただきたい。	
	②	あなたは、Q-Uの結果を把握し、生徒指導に生かしていると思いますか。	1.8	B	1.8			
	③	あなたは、基本的な生活習慣を身につけさせる指導を行っている。	2.5	A	2.4			
	④	あなたは、一人一人のよさを認め合う態度、望ましい人間関係を育てる指導を行っていると思いますか。	2.3	B	2.3			
	⑤	あなたは、教育的支援を必要としている生徒に対して家庭訪問や定期的な連絡など、家庭と連携しながら改善を目指していると思いますか。	2.2	B	2.1			
	⑥	校内支援委員会や不登校対策委員会は、組織的・計画的に支援に取り組み、機能していると思いますか。	2.4	A	2.2			
	⑦	あなたは、道徳の授業を年間計画に沿って実践していると思いますか。	1.2	C	1.5			
	⑧	あなたは、教育活動全般にわたり、あらゆる場面で「心の教育」を意識して指導していると思いますか。	2.4	A	2.3			
	⑨	あなたは、あらゆる場面で道徳の実践力を高める指導をしていると思いますか。	2.2	B	2.0			
	⑩	あなたは、不登校やいじめについての取り組みを積極的に取り組んでいると思いますか。	2.3	B	2.1			
V 特 別 活 動 に つ い て	①	あなたは、集団の一員としてのあり方、学習指導、保健安全指導、進路指導を計画的に行っていると思いますか。	2.0	B	2.2	○ 学級活動においては、2学期は行事への取り組みが中心となっていたが、生徒の自主性や学校生活の充実、望ましい人間関係を育てるための指導を、全教職員で共通理解のもとに行ってきた。各学級共に連帯感や所属感が高まっている反面、人間関係等の諸課題も見えてきており、今後の対応が必要である。また、生徒会活動や部活動では、生徒の主体的な活動を意識して取り組み、一定の成果が得られた。キャリア教育を中心とした進路指導や、集団づくりについては組織的な取り組みが課題である。	○ 部活動や諸行事に一生懸命取り組んで、成果が上がっていることに、地域住民も喜んでくれている。特に、ソフトボール部や音楽部の活躍は素晴らしい。また、小学生との交流を行っているとのこと、これもとても有意義だと思う。今後は、生徒一人ひとりが、若草中学校の生徒として誇りと自信を持てるような校風を作り上げてほしい。	
	②	あなたは、生徒の自主性を育成し、学級や学校生活の充実を図るための学級指導を行っていると思いますか。	2.2	B	2.2			
	③	あなたは、生徒が自らの生き方について考え、正しい職業観を身に付けることができるように進路指導を行っていると思いますか。	2.1	B	2.2			
	④	あなたは、一人一人のよさを認め合う態度、望ましい人間関係を育てる指導を行っていると思いますか。	2.3	B	2.3			
	⑤	あなたは、学校での活動を通して、生徒に連帯感や所属感を育てていると思いますか。	2.2	B	2.2			
	⑥	あなたは、充実した委員会活動や部活動を行うことができるよう、指導に努めていると思いますか。	2.3	B	2.2			
VI 家 長 ・ 保 護 者 と の 連 携 に つ い て	①	あなたは、地域や保護者からの情報や要望について、真摯に受けとめ、日々の教育活動に反映できるように努めていると思いますか。	2.3	B	2.2	○ 地域の諸行事への参加の呼びかけや、学期末には清掃活動を生徒会で行い、地域へのつながりをより意識させた。また、学校ボランティアの皆さんにご協力いただいたり、PTAの奉仕作業を行うなどの取り組みを実施した。情報発信とPTA活動の活性化は今後の課題である。	○ 学年便り等で、日々の様子を知ることができてもよい。また、地域の清掃活動への取り組みは素晴らしい活動なので、是非地域にアピールしていただきたい。音楽部の地域での発表会等も、企画していただければありがたい。学校と地域が積極的に交流できるように、今後も互いの連携を推進していきたい。	
	②	あなたは、各種の学習活動で、地域の施設を利用したり、地域の人々に協力を要請して連携を深めている。	1.9	C	2.2			
	③	あなたは、学校・学年・学級だよりを定期的に発行し、学校の様子を積極的に公開していると思いますか。	1.9	C	1.8			

○学校関係者評価者
 望月 保（区長会長）、今福正信（加代）、金丸浩恵（主任児童委員）、塚原久美子（主任児童委員）、河西友紀子（PTA副会長）、小田切雅裕（学校長）、上田直人（教頭）、岡 ことえ（教務主任）

○話し合いの内容
 ○教頭より、学校評価の意義と活用方法について説明した。
 ○教頭より、保護者アンケートについて説明し、質問意見をいただいた。その中では、保護者のアンケートの肯定率が全項目において昨年度を上回っている点や、その中でも、教師と生徒の関係や生徒の規律、学校からの情報発信、教職員の教育活動等では昨年度より5～9ポイント以上上昇したことなどが話題となった。
 ○教頭より、生徒のアンケートについて、評価点としては昨年と同点の項目が6、上回った項目が12であり、肯定率は18項目中13項目において昨年の数値を上回っていること等を説明した。これに
 対して、2年生の評価ポイントが全体的に高い点や、学校生活の規律やマナーの点での高得点が話題となった。
 ○自己評価については、評価ポイントと意見を参考に、達成状況・改善策について提案した。公開研究会への取り組みや部活動等での活躍、小学校との連携が話題となった。
 ○ご意見等は、後日書面で提出していただくこととし、全委員からご意見を頂くことができた。各委員からのご意見を参考に、学校関係者評価の意見・支援としてまとめた。